

のアルバム

▼6月9日 西河原



近況報告と意見交換

野洲市老人クラブ連合会役員（20人）の皆さんと市長が懇談会を行いました。

市長から特別養護老人ホームの待機者対策や（仮称）野洲市民病院整備事業の経過など市政の近況をお話しました。

参加者からは、熊本地震など想定外の震災があった場合の被災者支援と復興財源の確保、市民病院について質問があり、被災者への食料や飲料水の確保の大切さや復興や病院事業の財源は見通しがあることなど意見交換しました。

どんなお芋ができるかな？

中主幼稚園の園児94人（5歳児）がJA年金友の会の皆さんと一緒にさつま芋の苗を植えました。

秋にはこのさつま芋を、園児たちが収穫し、「**老いも・若いも交通安全**」のスローガンのもと道行くドライバーに安全運転を願って配布する予定です。

当日は晴天の下、園児たちは自分の植えた苗に向かって「世界一おいしいさつま芋になーれ！」と元気いっぱい呼びかけていました。

大きなさつま芋が採れるといいですね。



▼6月3日 六条



日頃の活動が評価されました！

家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクトの代表団体「NPO法人家棟川流域観光船」が、公益社団法人淡海文化振興財団から5月14日に「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」を受賞しました。

これは、生態回廊の再生を目指した「ビワマスが遡上する川づくり」の取り組みに対して評価されたものです。

今後は、地元、事業所、行政機関と協働し魚道づくりが行われます。

童子川を遡上するビワマス



産卵床造成の様子



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(142)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

す え き 須恵器登場 —その役割について—

それまでの弥生土器や土師器とは異なり、5世紀に入ると朝鮮半島からの技術移入によって新しい土器が作られ始めます。青灰色を呈して硬く焼き締まり、漏水しにくい特徴を持つこのやきものは「須恵器」と呼ばれています。

須恵器は製品を形づくるのに轆轤を用い、初めて窯を用いて焼きあげられたことでも知られています。

生産が始まり、その後、各地域に普及していく背景には、須恵器が古墳に副葬されるという、いわば古墳祭祀とのつながりがあります。このように古墳への副葬品としての側面を強くもつこの土器は、その後6世紀に入り各地で横穴式石室を採用した古墳が築造されるようになると、その生産が本格化していきます。

一方で、集落遺跡からも須恵器は多く出土するようになってきます。上述した須恵器のもつ堅牢で水が漏れにくい特徴から、甕といった液体を貯蔵する器種にも多くの需要があったものと思われます。その後、7世紀を迎える頃になると大きな画期を迎え、生産の目的が古墳祭祀から日常用品へ転換していきます。

このように須恵器の概略についてお話してきましたが、開始時期や各地に伝播していく様子など、須恵器生産の始まりについてはまだまだ分からないことも多くあります。

写真で紹介しているのは、野洲市市三宅東遺跡で出土した5世紀前半頃の初期須恵器です。初期段階特有のとても丁寧なつくりで、美しく仕上げています。現在のところ、近江地方でこの時期の窯は見つかっていないので、これらは他地域で生産された搬入品の可能性が高いと思われます。

これらの資料をはじめ、野洲市内で出土した様々な須恵器を通してその役割や特色を考えるテーマ展「須恵器登場—その役割について—」を今月の16日から開催します。

この機会にぜひご観覧ください。

(博物館学芸員 角 建一)



市三宅東遺跡出土初期須恵器 (野洲市教育委員会蔵)



熊本地震の復興を願って

4月30日から5月8日にかけて熊本地震のボランティア活動をされた山崎吉輝さん(三上)、山崎真生さん(富波乙)、松本岬さん(近江富士)、田中幸輝さん(守山市)4人の内、3人(田中さん除く)が、市長を表敬訪問され、熊本市と益城町でのガレキの処理などボランティア活動の報告をされました。

「被災地では、なかなかボランティアの力を生かしきれていなかった。」と貴重な体験談を受け、今後の市の防災対策に生かしていきます。

▼6月9日 市役所



左から松本岬さん、市長、山崎真生さん、山崎吉輝さん

安全な地域を目指して

滋賀県内で犯罪被害の未然防止を呼び掛ける「平成28年ゆる3プロジェクト防犯キャンペーン」が野洲駅南口で行われました。

地元防犯ボランティア(駅前自治会、駅前北自治会、自転車防犯協会守山・野洲支部)の皆さんとドウタクくん、キャッフィーが犯罪を「ゆる3(さん)」と訴え、犯罪が急増している「自転車盗難」の被害防止を通行人に呼び掛けていました。

▼5月18日 野洲駅南口

